

# 大杉 栄 (おおすぎ・さかえ) 1885～1923

社会運動家・無政府主義者 ～反逆と自由を求めた革命家～

**出生** 1885年(明治18)1月17日、香川県丸亀(現・丸亀市)に軍人の長男として生まれ、東京を経て新潟県新発田町(現・新発田市)で育つ。

**履歴** 1899年、名古屋陸軍幼年学校に入学したが、1901年退学処分となる。1902年上京し、海老名弾正から受洗、また1903年には外国語学校仏語科に入学している(1905年卒業)。在学中より『平民新聞』の発送事務を手伝っている。1906年、電車賃値上げ反対運動で入獄、以後職業革命家として入獄数回を繰り返す。大逆事件が起きた1910年には赤旗事件で入獄中だったため連座を免れる。この頃からアナキズムの代表的思想家となり、サンジカリズム研究会創立(1913年)、『平民新聞』創刊(1914年)等を行っている。1922年国際アナキスト大会に出席しようとして密出国したが、フランスで逮捕され強制送還される。



**事績** 幸徳秋水の週刊『平民新聞』に参加することで社会主義者としての一歩をふみだし、幸徳がロシア社会革命党に共鳴して直接行動論をとると同時に、その支持者として一貫して活動した。大逆事件以降は活動家であると同時に、個人解放があらゆる社会的解放の基礎となるとする主張の諸論文を発表している。また、ロシア革命以後の社会革命のあり方を問い続け、初期にはソ連擁護、のちには独裁反対の見地、社会革命より個人の解放と自由を基調とする思想からアナキズム、サンディカリズムの立場に立ちボルシェビズムに対抗するようになる。彼の死後、アナキズムは急速に衰退した。

**評価** 幸徳秋水が発想の基礎に儒学的な志士仁人意識をおいていたのに対し、フランス風個人主義に徹した大杉栄のベースにはベルグソンの哲学やダーウィンの進化論があった。非難的となった大杉の性的放縦も、彼の心中では生の拡充の一環であった。死後、アナキズムが急速に影響を失ったのは、アナキズムそのものがボルシェビズムに対抗できにくかったからではあるが、それ以上に彼の個性の人的魅力が失われたためであった(参考『近代日本哲学思想家辞典』)。

## 代表作

『自叙伝』 生まれたところのことから、1916年に起きた日影茶屋事件の思い出までを取り扱っている。1919年の雑誌『新小説』に「前科者の前科話、獄中記」として『自叙伝』の7「獄中生活」が載り、次いで1921年から1923年までの『改造』に飛び飛びで掲載された。大杉栄の死後、遺著として1923年11月に改造社から刊行された。全集では『改造』に掲載された分を『自叙伝』として第12巻に、「獄中生活」を『獄中記』として第13巻に収録。

『正義を求める心』 既刊の論文集『生の闘争』[1914年 新潮社]、『社会的個人主義』[1915年 新潮社]、『労働運動の哲学』[1916年 東雲堂書店]のうち主要論文を集め、さらに新しい追加を行ったもので、クロボトキン『青年に訴う』の翻訳が付録されている。サンディカリズムの立場から社会、政治、労働運動を論じたもの。

**神奈川** 妻の堀保子、伊藤野枝、神近市子との四角関係になり、葉山の日影茶屋で1916年11月神近市子に刺され、瀕死の重傷を負う。神近は二年の刑に処される。大杉は事件後伊藤野枝と結婚する。また、この事件について大杉は「お化を見た話」[1922年、『自叙伝』収録時には「葉山事件」]を、神近は「豚に投げた真珠」を書いているが最後の場面での二人の記述は食い違っている。

**最期** 1923年9月16日、関東大震災後に伊藤野枝とともに鶴見の妹を訪ねた帰り、甥の橘宗一とともに自宅近くの柏木(現・新宿区)で甘粕正彦憲兵大尉らに麹町憲兵隊へ拘引される。のち軍法会議にかけられた甘粕正彦らの供述では、憲兵隊本部で扼殺され、憲兵隊構内の古井戸に投げ込まれた。享年38歳。

## Great Works 20

大杉栄全集 全14巻 現代思潮社 1963～1965 <請求記号308/28>

**解題** 大杉栄の著作についてテーマごとに収録。第14巻の解説には「書簡類は後日を期する補巻において、大杉研究に必至な著作目録、年譜、およびさらに発見される可能性をのこしている彼の文章および談話・調書その他とともに、送り出すことを得るはずである」とあるが、その後補巻は刊行されていない。書簡については『大杉栄書簡集』[1974年 海燕書房]が刊行されている。

## 内容

- 第1巻 = 青年に訴う [大杉栄の初期の論考を中心に、この時期および大正初期に彼の主たる関心の一つだった反戦反軍備に関する論文・翻訳を収録] 青年に訴う クロボトキン [1907年] 革命の研究 クロボトキン [1922年] 社会主義と愛国心 [1905年] 万国社会党平和会議招集 [1914年] 他
- 第2巻 = 無政府主義の哲学Ⅰ [社会哲学的な認識と思想方法論を主題とする論文、および同時代人に対する論争的な評論その他を収録] 奴隷根性論 [1913年] 生の拡充 [1913年] 賭博本能論 [1914年] 他
- 第3巻 = 無政府主義の哲学Ⅱ [社会と個人及び性の開放を主題とする評論、研究、翻訳を収録] 近代個人主義の諸相 [1915年] 史的社会観 [1915年] 現代社会観 [1915年] 男女関係について [1916年] 他
- 第4巻 = クロボトキン研究 [クロボトキンに関する研究を中心とし、それに関連のある進化思想をテーマとする評論その他をあわせて収録] 動物界の相互扶助 [1915年] 『種の起源』について [1914年] 他
- 第5巻 = 文芸論集 [詩と感想、民衆芸術について、社会と文芸、新刊紹介・序文の4項目に分け文芸関係の評論を収録] 民衆芸術の技巧 [1917年] 武者小路実篤氏と新しき村の事業 [1922年]
- 第6巻 = 労働運動論集 [労働運動に関する論文を中心に収録] 労働運動の精神 1919年 組合帝国主義 1922年 労働運動とプラグマティズム [1915年] 労働運動と個人主義 [1915年] 他
- 第7巻 = ロシア革命論 [ロシア革命およびバクーニンを主題とする論文と翻訳を収録] 生死生に答える [1922年] 労農ロシアの新労働運動 [1922年] 農民問題についての一考察 [1922年]
- 第8～9巻 = 一革命家の思い出 [1920年 春陽堂 クロボトキンの自叙伝の翻訳]
- 第10巻 = 相互扶助論 [1917年 春陽堂 アナキズム思想史上の重要な学説とされるクロボトキンの著作の翻訳]
- 第11巻 = 民衆芸術論 [ロマン・ロランの著作の翻訳と大杉栄が翻訳した小説類] 民衆芸術論 [1917年 阿蘭陀書房] 釣鐘物語 [1907年] 労働者と白き手の人 [1914年]
- 第12巻 = 自叙伝 [大杉栄の自伝と本人および伊藤野枝がモデルと思われる小説] 自叙伝 [1922年 改造社 単行本には「獄中生活」収録されているが、全集には収録されていない] 死灰の中から [1919年]
- 第13巻 = 日本脱出記・獄中記 [日本脱出記 [1923年 アルス] 獄中記 [1919年 春陽堂] 獄中消息 [旧全集で増補・整理された、春陽堂版『獄中記』に収録された収監中の手紙]
- 第14巻 = 人生について [『家庭雑誌』等に書かれた掌編的短文や大杉栄が刊行した新聞・雑誌類の編集後記等を収録] 予の想像する自由恋愛 [1906年] 入獄案内 [1922年] 他 \*当館欠本

## 参考文献 ~この人をもっと知るために~

### <図書>

- ☞ 神に祈らず 大杉栄はなぜ殺されたのか / 宮崎学著  
飛鳥新社 2000年 269p <289.1JJ / 3897> 資料番号 21280680
- ☞ 大杉栄自由への疾走 / 鎌田慧著  
岩波書店 1997年 496,10p <289.1GG / 3605> 資料番号 20987376
- ☞ 大杉栄(人と思想91) / 高野澄著  
清水書院 1991年 222p <289.1AA / 3062> 資料番号 20464095
- ☞ 大杉栄評伝 / 秋山清著  
思想の科学社 1976年 312,11p <289.1H / 1302> 資料番号 10533362
- ☞ 無政府地獄 大杉栄襟記 / 安成二郎著  
新泉社 1973年 299p <363.8 / 19> 資料番号 10992691
- ☞ 大杉栄研究 / 大沢正道著  
同成社 1968年 379p <289.1 / 615> 資料番号 10525566

### <図書(部分)>

- ☞ 最後の杉 / 内田魯庵著(新編思い出す人々)  
岩波書店 1994年 p360-380 <I910 / ウ> 資料番号 20659439
- ☞ 大杉栄 - 反逆と自由を求めた革命家 / 林尚男著(平民社の人びと 秋水・枯川・尚江・栄)  
朝日新聞社 1990年 p321-392 <309.02Z / 10> 資料番号 20263026
- ☞ 大杉栄 / 出口裕弘著(言論は日本を動かす 第6巻)  
講談社 1986年 p69-96 <281T / 122 / 6> 資料番号 12357208
- ☞ 大杉栄・叛逆の眼 / 青地農(叛逆者 日本を支えた反骨精神)  
弘文堂 1966年 p44-62 <281.04 / 75>
- ☞ 大杉栄 / 多田道太郎著(20世紀を動かした人々 第2巻)  
講談社 1963年 p317-410 <280.8 / 10 / 2> 資料番号 10496867